

食農教育の推進

馬場 隆

(経営部)

【目的】

都市農業では圃場が住宅に隣接しており、周辺住民の農業に対する理解が不可欠である。また、学校関係からは稲作に関する要望があり、総合学習の開始と共に要望の量と質は高まっている。これらを踏まえ、保育園・小学校を対象とした農作業の技術指導、水田畑地環境及び農業の意義についての説明に加え、都民に対し、食と農の広報宣伝教育、農産物生産活動への参加（ボランティア活動等）、交流体験の指導者養成、農の持つ多面的機能、等への啓蒙拡充を図る必要がある。こうしたことは、都内産農産物の販路拡大にも繋がる。

【成果の概要】

1. 稲作指導

総合学習の一環で米作りに取り組んでいる小学校も多く、小学校からの要請により、学校水田・ポット稲の巡回指導と場内の水田において稲作体験を実施した。

1) 巡回指導：現場で、田植え、肥培・水管理から脱穀・調整まで指導した。日照時間等の点で条件の悪い学校水田が多いが、ほとんどの学校で収穫を迎えることが出来た。今年の生育障害としては出穂期に水を切らしたため不稔となったポット稲、出穂期に病害虫対策として酢等を散布したために籾に障害が生じた事例があった（表1）。

2) 稲作体験：稲作体験は農業体験により農業を理解させる目的で、近隣の小学校の要請に応じて田植えから脱穀・調整まで行った。規模は水田4aで粳米、糯米、紫黒米を栽培した。夏休みの間も度々除草・生育観察を行い、稲刈りは手刈りとバインダーによって行った。農業関係団体は食農教育担当職員で種籾の準備から始めた（表2）。

3) 東京都における稲作：今年の東京都の水稻作付面積は昨年比5.5%減の222haで作況指数は103のやや良であった。8月下旬の高温により早生品種では刈り取り時期が早まり、刈り遅れによる胴割粒が見られ、また早く落水した水田では高温障害による乳白粒が見られた。品種構成は‘キヌヒカリ’が引き続き増加傾向で、他品種は減少している（表3、表4）。

2. サツマイモ栽培体験

参加団体は公募により選定した。場内の圃場10aにおいて保育園・幼稚園12園、小学校1校、町内会1団体を対象に、苗取・植付、除草・観察、蔓刈・堀取を行った。使用した品種は‘高系14号、ベニアズマ、春こがね’である。黒マルチ栽培の斜植えて、植付は5月9日と16日の2回に分けて行った。植付後も作業の時は職員が付いて作業の指導・説明を行い、質問に答えた。今年の問題もなく収穫を迎え、収穫の喜びを園児・先生・父兄一緒に体験出来た（表5）。

表1 巡回指導

	指導項目	学校数
5月	施肥・肥培管理	2
6月	田植・水管理	3
7月	水管理・雑草	2
8月	生育障害・病害虫	2
9月	稲刈	1
10月	脱穀・調整	3

表2 稲作体験

	作業内容	学校数 [人数]	農業関係団体 [人数]
4月	種子予措・播種 (塩水選・浸種)		1 [6]
5月	育苗管理・施肥		1 [6]
6月	田植・水管理	3 [210]	1 [6]
	生育観察・除草	2	1 [6]
7月	除草・観察 (手取・田押車)	4 [215]	1 [6]
8月	観察	4 [215]	1 [6]
9月	稲刈・はざ掛 (手刈・バインダー)	5 [333]	1 [6]
10月	脱穀・調整 (千歯・足踏脱穀機)	3 [210]	

表3 平成14年産水稻作付面積及び作柄

作付面積	反収	予想収穫量	作況指数
222 ha	403 kg	895 t	103

表4 東京都における品種別作付面積の割合 (平成13年度)

コシヒカリ	アキニシキ	キヌヒカリ	月の光	日本晴	その他
34 %	25 %	22 %	6 %	4 %	9 %

表5 サツマイモ栽培体験

	作業内容	保育園 [人数]	小学校 [人数]	町内会 [人数]
5月	苗取・植付	12 [880]	1 [210]	1 [6]
6月	除草	3 [415]	1 [35]	
7月	除草・観察	9 [185]	1 [70]	1 [2]
8月				
9月	試掘	4 [86]	1 [3]	1 [2]
10月	蔓刈・掘取	12 [880]	1 [210]	1 [70]